

海外宣教会 和文・英仏文機関誌

海外佛教事情・THE BIJOU OF ASIA

復刻版 全3巻

【刊行概要】

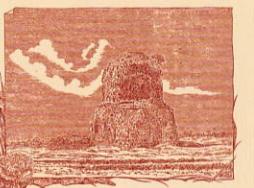
第1回配本 2014年12月刊	第1巻	海外佛教事情	第1集～第10集 (明治21年11月～明治23年5月)	B5・上製 366頁	全2巻 60,000円+税 ISBN978-4-908147-22-7
	第2巻	海外佛教事情	第11集～第24号 (明治23年6月～明治25年3月)	B5・上製 332頁	
第2回配本 2015年6月刊	第3巻	海外佛教事情	第25集～第40号 (明治25年4月～明治26年5月)	B5・上製 380頁	全1巻 30,000円+税 ISBN978-4-908147-25-8
		THE BIJOU OF ASIA	No.1～No.6 (明治21年7月～明治22年8月)		

監修 中西直樹(龍谷大学文学部教授)・吉永進一(舞鶴工業高等専門学校准教授)

推薦 赤松徹眞(龍谷大学学長・本願寺史料研究所所長)

Brian Bocking(アイルランド、コーカク大学宗教学科教授)

予定価格 本体90,000円+税 ISBN978-4-908147-21-0



関連既刊図書のご案内

定価	浅野研眞個人誌
体裁	佛陀 復刻版全一巻
解説	第七巻第一号(通巻第一号)～
著者	中西直樹(龍谷大学文学部教授)
編・解題	吉永進一(舞鶴工業高等専門学校准教授)
第一回配本	〔第一巻～第三巻〕
第二回配本	〔第四巻～第七巻〕
第三回配本	〔第八巻～第十巻〕
第四回配本	〔第十一巻～第十三巻〕
第五回配本	〔第十四巻～第十六巻〕
第六回配本	〔第十七巻～第十九巻〕

●表示はすべて税別

三人社

〒606-8316

京都市左京区吉田二本松町4 白堀荘

電話 075-762-0368

FAX 075-762-0369

振替 00960-1-282564

※図書館様・書店様へ

小社は少部数出版のため取次口座はございません。ご注文は直接上記までお申し込みください。

海外宣教会 和文・英仏文機関誌

海外佛教事情 THE BIJOU OF ASIA

○復刻版 全3巻○

限定
60部

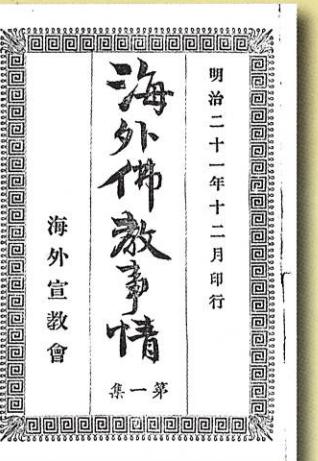
明治二十年代の仏教国際ネットワーク!

明治二十年代初頭、西本願寺の普通教校(龍谷大学前身校の一つ)に集った若き仏教者たちは、旧態依然たる仏教の閉塞状況を開拓する道を模索して、海外へと眼を向けた。欧米での仏教への関心の高まりが彼らの背中を押し、海外宣教会が組織され、世界各国の仏教者と緊密な交流を重ねて、海外布教を目指した事業が展開された。やがて彼らの活動は、反動的な仏教教団勢力の前に挫折したが、世界的に見ても、民間レベルの国際交流がほとんど行われていなかつた段階で、彼らの先進的取り組みの意義は、今も決して色あせることはない。

海外宣教会の和文機関誌『海外佛教事情』と英仏文機関誌『THE BIJOU OF ASIA(亞細亞の宝珠)』は、そのことを伝える貴重な資料である。

佛地聖教圖

監修 中西直樹(龍谷大学文学部教授)
吉永進一(舞鶴工業高等専門学校准教授)
ISBN978-4-908147-21-0
●予定価格 本体90,000円+税
●体裁 B5判・上製・2面付
総1,078頁



三人社

復刻によせて

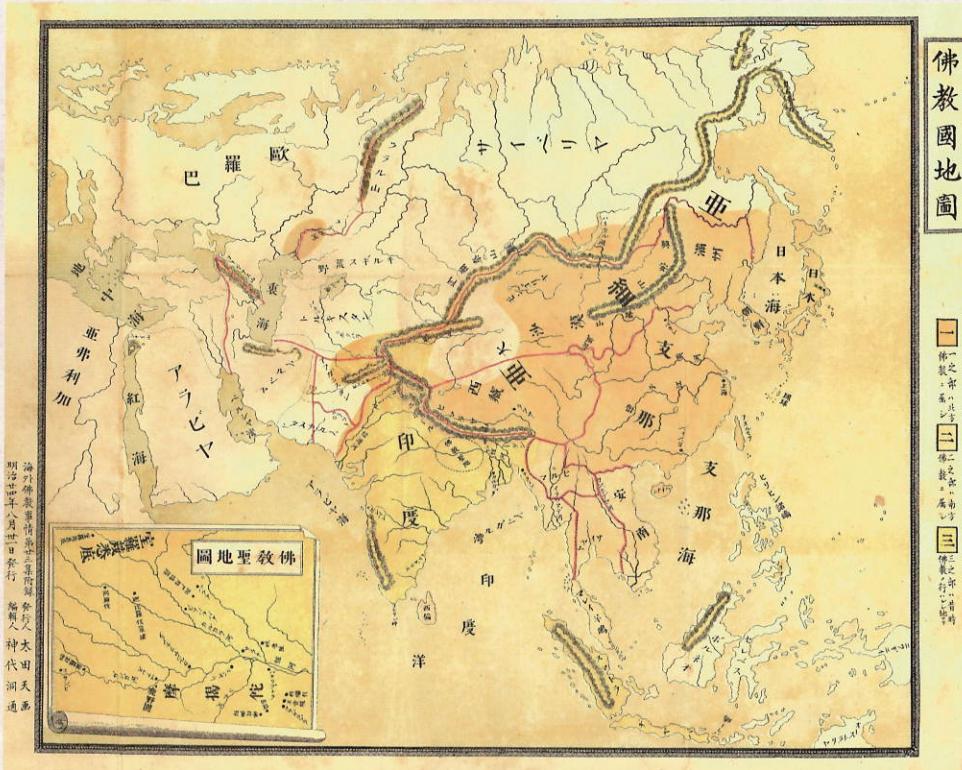
龍谷大学学長 赤松 徹眞

この度、中西直樹氏（龍谷大学文学部教授）と吉永進一氏（舞鶴工業高等専門学校准教授）によって海外宣教会機関誌『海外佛教事情』『THE BIJOU OF ASIA（亞細亞の宝珠）』が復刻されることになった。まことに意義深いものである。本書により明治中期の佛教者の国内外の「文明」社会の認識、歴史的事実とその総合的連関性の研究、佛教者の社会的実践性の研究が進展することを期待し、ここに推薦するものである。

ところで、明治十年代後半、条約改正をめぐる動きのなかで鹿鳴館に象徴される欧化主義が本格化し、欧米へのさまざまな関心が高まり、交流が広がりをみせた。佛教教団は各宗派で「宗制」など教団の基本法を制定し、新たな社会動向への対応に本格的に踏み出した。ことに欧米での佛教伝播への関心の高まりは、ひるがえって日本における教团のあり方の刷新を含む改革と、佛教の欧米への伝道志向を醸成することとなった。

真宗本願寺派では、一八八五（明治一八）年四月に普通教校を開校し、佛教改革を志す若き学徒は「反省会」を結成し、八七年八月には『反省会雑誌』を発刊し、同時に「欧米通信会」を結成、「欧米通信会趣意書」を作成し、海外の佛教事情に関心を寄せた。翌年には「欧米（佛教）通信会報」が『反省会雑誌』に毎号附載され、七月には英文雑誌『THE BIJOU OF ASIA（亞細亞の宝珠）』が創刊された。同年八月に欧米通信会を「海外宣教会」に改組し、十一月には『海外佛教事情』を創刊するにいたった。

『海外佛教事情』『THE BIJOU OF ASIA（亞細亞の宝珠）』の復刊は、国境無きグローバル社会、人間と科学技術及び自然との二項対立型思考、人工的な構築世界など、まさに近代的な文明觀が根源的に問われる時代に生きる私たちに、学術研究のみならず、非我・無我を根源的立場とする佛教者が現代社会の諸課題にどのような実践力をもって、対話・交流し、広く地域社会および世界に貢献するのか、時間性を超えて問い合わせを發しつつ、叡智・智慧をもたらしてくれるであろう。多くの方々が本書を手に取っていただきたくお願いする次第である。



推薦のことば

1887年から1893年にかけては、明治佛教研究者にはとくに興味深い時期である。というのは、西洋とアジアの佛教者の間で眞の意味での複線的交流が出現し、少なくとも一時的であるにせよ、日本が世界的な佛教交流の新たなネットワークのハブとなっていたという、記念すべき時期であるからだ。先駆的な英仏語雑誌『The Bijou of Asia』は、それらの佛教徒のやりとりを西洋の観客に向かって記録し、他方、同時に発行されていた『海外佛教事情』誌は、日本側の佛教者や、あるいは興味を持つ読者に対して、同様のことをおこなった。いずれも1888年に創刊され、その背景には、佛教者たちの小さなグループがあった。彼らは、西本願寺に關係しながらも、宗派に關係なく人類すべてに恩恵を与える宗教という壮大で樂觀的な佛教像を描いていた。その刊行物は長くは続かなかったが、彼らが大事にした理念はさまざまな形態で存続している。今回、吉永進一氏、中西直樹氏という専門家による監修の下に、これらの刊行物が復刻されることで、リードビーター、ブラヴァツキー、マックス・ミュラー、T・W・リス=ディヴィズ、インガソル、ラッセル・ウェブ、チャンドラ・ダス、フィランジ・ダーサ、そしてチャールズ・フォンデスといった、西洋佛教者、神智学徒などの埋もれた著作が目の目を見る。『The Bijou of Asia』に寄せられた、あるいは『海外佛教事情』に翻訳された手紙や記事は、他の出版物で見ることのできないものが多い。すでにこの領域は瞠目すべき発見であふれているが、この復刻によって学者たちによる詳細な研究が容易になるだろう。『The Bijou of Asia』と『海外佛教事情』から得られた見通しによって、すでに世界中の学者たちが、世界佛教の近代史、そしてそこにおける日本佛教の役割を「上書き」できるようになっている。これら二つの注目すべき刊行物は、とりわけ、複雑で加速しつつあった世界的規模での相互のやりとりについての生々しい証言となっている。それらは、往々にして「失敗した」計画であり、満たされなかつた希望に終わったように見えるにしても、19世紀末にありながら、私たちが今日出会うさまざまな姿の現代佛教を予示しているのである。

ブライアン・ボッキング
アイルランド、コーク大学宗教学科教授

The period from 1887-1893 is of particular interest to scholars of Meiji Buddhism since it marks the emergence of genuinely multilateral communications among Western and Asian Buddhists in which Japan, temporarily at least, formed the hub of a new network of global Buddhist communication. The pioneering bilingual (English/French) *The Bijou of Asia* magazine documented these Buddhist interactions for Western audiences while the parallel Japanese-language journal *Kaigai Bukkyo Jijo* did the same for Japanese Buddhists and other interested readers. Behind these publications, both launched in 1888, was a small team of Buddhists affiliated to Nishi Honganji but sharing a grand and optimistic vision of Buddhism as a religion beneficial for all humanity, regardless of sect. The journals did not last more than a few years but the ideals they enshrined have persisted in various forms. The republication of these journals today, with expert introductory comments by Profs Yoshinaga Shin'ichi and Nakanishi Naoki, reveals a treasure-trove of writings by Western Buddhists, Theosophists and others including Leadbeater, Blavatsky, Max Muller, T W Rhys Davids, Ingersoll, Russell Webb, Chandra Das, Philangi Dasa and Charles Pfoundes. Many of the letters and articles submitted to *Bijou of Asia* or translated for *KBJ* are unpublished elsewhere, so the present publication will facilitate detailed research by scholars in an area already replete with remarkable discoveries. Insights gleaned from *Bijou of Asia* and *KBJ* are already enabling scholars worldwide to 'rewrite' the history of modern global Buddhism and the role of Japanese Buddhists within that history. Above all, these remarkable journals provide a vivid testimony to the complex and accelerating worldwide interactions that, in the late nineteenth century foreshadowed – often through seemingly 'failed' projects and frustrated hopes – the varied modern expressions of Buddhism that we encounter today.

Brian Bocking
Professor of the Study of Religions
University College Cork
Cork, Ireland

第1集	明治22(1889)年4月
目次	海外佛教事情第一集目次
緒言	
論説	日本佛教評論 真宗教旨 何故ニ佛教ナルヤ 米国(仏光新誌訳出) 佛教ノ慈惠 幽玄佛教論 佛教ト基督教トノ比較 印度サラサビサンテレサ新誌訳出 基督教國ヲ化メ佛教國ト為ントス 米国(サン新聞訳出) 神智学会トハ何ソヤ パソス雑誌訳出
問答	合衆国チャールス、マーセイルスノ質疑 チャールス、マーセイルス氏ノ問ニ答フ
書信	松山松太郎氏ノ書信 二通
書信	ウイリヤム、キウ、チャツチ氏返信 (一千八百八十七年五月十九日紐育発) ウイリヤム、キウ、チャツチ氏書信 (一千八百八十七年八月紐育発) 米国エドワード、ウォレツプ氏書信 (一千八百八十七年十月米国カリホルニヤ洲発) エデス、ジョンストン嬢書信 (一千八百八十七年十一月蘇格蘭発) 英國フランシスカ、アーランデール嬢書信 (一千八百八十七年十二月伊太利羅麻府発) ダンマパラ、ヘバビタラナ氏書信 (一千八百八十八年一月印度発) 米国カーネル、カツソーカー会社の書信 (一千八百八十八年二月) 佛教会計書記クリシユナ、チャントラ、チャウドリー氏の信書 (一千八百八十八年三月印度チノタゴン発)
	カーネル、カツソーカー カーネル、カツソーカー
	クリシユナ、チャントラ、 チャウドリー
	ダンマパラ、ヘバビタラナ ダンマパラ、ヘバビタラナ
	エリオト、ビー、ページ氏書信 (一千八百八十八年四月米国ミヅリー州発) アーランデール嬢書信 (一千八百八十八年七月英國発)
	アーランデール
	セントジョージ、レーン、フヲクス氏書信
	1

海外佛教事情第一集

● 緒言

義に本會創設趣意書并に規則を公にする内外の新聞雜誌亦多く之を轉載せるを以て世間の讀者は已お本會の目的主意の所在を了知せるならん今や本會は規約に隨ひ海外より領受せし處の論説書信等を編纂之を海外佛教事情と名け其第一集を發行し會員に頗んとす茲に聊か其創設起原を察叙し以て本編の緒言となす

抑本會は實に歐米佛教通信會を擴張せるものにして該會の起原濫觴は昨二十年二月頃或る外國の新聞に米國に佛教傳播せるの情況を掲載ありしを吾國官報已下其他諸新聞に之を譯載せしが現時本會創立

海外宣教會の設立ある此に數年ならんとす其間之が機關雜誌に比當すべき海外佛教事情は毎月一回之を刊行し號を累ねる多き今也既に其第二十四集の發行を見るに至れり蓋し設立日猶淺く冀事最も幼稚にて當初大喝一聲世人の懶眠を機動し多數の協賛を得たるにも拘はらず其事業の進々途

論説 海外宣教會員諸君に告ぐ

島地黙雷

